

子どもたちの 地域参加・参画

顔の見えるつながりをめざして



今期のテーマについて

前期(2020・2021 年度)の社会教育委員会議では、「コロナ禍における社会教育のあり方」をテーマに協議してきました。

地域での活動に目を向けるとコロナ禍で自粛を余儀なくされた数年の間に活動が停滞し、事業の継承が難しい状況が見られました。

また、子どもたちにとっては、学校や家庭内での活動が中心となり、今まで関わりのあった「地域」とのふれあいの機会が減少しました。

地域と子どもたちのふれあいの機会の減少を受けて、「子どもたちの地域参加・参画」をテーマに設定し、社会教育委員会議で 2 年間協議してきた内容をまとめました。

子どもたちの地域参加・参画 顔の見えるつながりをめざして



■ これまで

コロナ禍でさまざまな活動が中止や自粛を余儀なくされ、あらゆる分野でふれあいの機会が減ってしまいました。

地域での活動では、自粛していた期間に役員が交代し、コロナ前の行事の引継ぎが難しかったり、担い手が高齢化してきていることに加えて、若い世代の自治会離れや地域活動への関心の低下などの問題に直面しています。

また、ライフスタイルや価値観が多様化しており、これまでのアプローチ方法ではなかなか情報が効果的に届いていない可能性があります。

学校では、教員の働き方改革の実現に向けた取り組みが進められる一方、地域の一員である学校と地域との連携や調整も重要となってきます。

■ ここから始まる未来の笑顔づくり、子どもの意思を大切に。



家 庭

若い世代の意見は届いているか

- 参加することはあるが、参画する機会は少ない。

ライフスタイルの変化

- 家族形態の多様化(共働き世帯や一人親世帯の増加など)
- 地域活動への関心の低下、自治会・町内会離れ。
- 仕事や家庭で精一杯、余力がない。
- 地域活動以外の選択肢がたくさんある。

学 校

地域との関わり

- 働き方改革による教員との調整。
- コミュニティ・スクール*1の導入。

地 域

地域の情報が届いていない

- 回覧板による情報発信の限界
- ちいき情報局*2があまり知られていない現状。

担い手の高齢化・役員の負担感

- 働き世代の高年齢化に伴って、地域活動に関わる時間が持てない人が増加。
- 役員の担い手の減少・業務の集中

*1 コミュニティ・スクール
「学校運営協議会を設置した学校」をいい、学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちのより良い環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すための仕組み

*2 ちいき情報局
パソコンや地域情報地域向け一ビス



Point! 子どもたちとのつながり 若い世代の声を生かすには



1. 子どもの意思(自主性)を尊重した参加・参画が大切。
2. 子どもたちがどのようなものを望むのか、声を聴くことが必要。
3. 地域内での子どもの育ちに関する情報交換、意見交換の場が必要。
4. 子どもやその親世代の声を地域に反映させるために、地域団体の役員等に公募や子ども枠を設けるなどの検討。
5. 子どもたちが主体的に自らやりたいことを考えて、進めていくための支援。

Point! 学校との連携



1. 地域の人たちが学校へ来る場面をつくる(オープンな授業参観や校内整備のボランティア等)。
2. 子どもの声を聞き(地域学習の時間等で)、地域活動に活かす。
3. コミュニティ・スクールの活性化。



Point! 地域の工夫



1. 子どもたちにとって魅力的な事業の企画。
参加・参画しやすい仕組みづくり。無理なく簡単な参加形態の工夫。
2. 地域参加・参画する意義や目的、メリットを理解してもらうためのアプローチ。
3. 若い世代が使う情報発信手段の活用。

子どもたちの地域参加・参画を考える上で大切なことは、「子どもの意思」です。

子どもたちが「行ってみよう」「やってみよう」と行動に移すためには、身近な大人(親や先生等)の声掛けが大事です。参加・参画することのメリットや意義等を伝えることも重要だと考えます。

地域は子どもたちの参加・参画のために興味を持つようなイベントを企画したり、若い世代が使う情報発信手段(SNS等)を取り入れたり、新しい参加・参画する形態の工夫が今後必要になるのではないのでしょうか。

また、学校と地域が連携し、子どもたちと一緒に地域課題を考えたり、相互の交流を深めたり、顔の見える関係づくりをすることも有効なことです。

コロナ禍で希薄になってしまった関係性をすぐに元に戻すことは大変なことです。地域、家庭、学校が無理のない範囲で相互の関係性を深めていきながら、子どもたちが参画できるようになることを望んでいます。





子どもたちを巻き込んだ仕組みづくり

■大野中学校区教育力ネットワーク協議会 「中学生ボランティア派遣事業」

大野中学校区教育力ネットワーク協議会では、平成22年度から「中学生派遣ボランティア事業」を行っています。地域の事業へ中学生がボランティアとして参加するというもので、体系的な仕組みをつくって運用しています。地区レクの運営、交通安全の足形マークの塗布、だんご焼き、公民館まつりの司会など、さまざまな事業へ中学生が参加し、地域の人たちと交流することで顔の見える関係を作っていこうとするものです。参加した中学生は「ありがとう、お疲れさまの声をかけてもらってうれしかった」と話します。こうしたことが、子どもたちの肯定感を育むのではないのでしょうか。

今後は相互の地域の人が学校へのボランティアとして参加する相互の体制をつくっていくことを目指しています。



- 上 だんご焼きの3色のだんごを一つ一つ丁寧に作ります。
- 下 道路にラッカーで交通安全の足形マークを塗布しました。

■港地区青少年を守る会の主催事業 「郷土いろはカルタ大会」での 中学生ボランティアの活動

港地区青少年を守る会で1月に開催している「郷土いろはカルタ大会」は、40年以上前から続く港地区の恒例行事です。

カルタ大会に参加する小学生はコロナ前には300人以上にもなります。また、小学生の時にこのカルタ大会に参加した中学生が大会当日の「カルタの読み手」となる他、「受付」や「会場整理」運営スタッフの一員として活躍しています。



- 上 壇上で読み手のボランティアをする中学生
- 下 参加した小学生の真剣なまなざし

平塚市社会教育委員会議が繋げてきたもの

平塚市社会教育委員会議では、1期2年の任期において社会教育に関するさまざまなテーマを設定して議論し、その内容を報告書としてまとめています。

まとめた報告書は、教育長や教育委員との情報交換会時に直接手渡し、説明をしています。

また、市民の方々にも広く知ってもらうため、市ホームページの社会教育委員会議のページに掲出している他、市内26公民館に配置し、手に取れるようにしています。

■過去の報告書の詳細はこちら



2022・2023年度 平塚市社会教育委員会議 2024年2月発行

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号

平塚市教育委員会 社会教育部 社会教育課

■TEL 0463-35-8123 ■FAX 0463-34-5522

